

下野市立石橋北小学校

1 学校課題

主体的に学び、高め合う児童の育成
～「わかる」「できる」が実感できる授業をめざして～



2 研究計画

(1) 主題設定の理由

本校の児童は、各種教育調査の結果によると、各教科とも基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着に課題がある。また、「友達の前での考えや意見の発表」や「学習に自分から進んで取り組む」ことにも課題があることが分かった。

そこで、児童が学ぶことに興味や関心をもつとともに、見通しをもち粘り強く取り組み、「分かる楽しさ」「できる喜び」が実感できるよう授業改善を図ることが重要であると考えた。その際に、GIGAスクール構想により整備されたタブレット端末などのICT機器を有効に活用していく。この取組を計画的・継続的に行うことで、児童が達成感や達成感を得て自信を深め、さらに学習意欲が高まり、主体的に学びに向かい、互いに高め合う児童を育成することができるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

(2) 課題追究によるめざす児童の姿

- ①課題を自分のものとして捉え、解決に向けて取り組み、深く学ぶことを楽しむ子ども
- ②互いのよさを認め合い、高め合う子ども
- ③授業で「分かった」「できた」と実感できる子ども



3 研究内容

(1) 研究の方針、内容および具体策

「わかる楽しさ」「できる喜び」を実感できる授業の工夫

方針	内容	具体策
(1) 学習意欲を高め主体的に学びに向かうことができる授業の工夫	①自ら目的意識や課題意識(疑問・問い)をもつことができる導入・「めあて」の提示の工夫	ア 自作教材、具体物の活用の工夫など イ ICT機器を活用した導入の工夫(タブレット端末、デジタル教科書等) ウ 児童の情意に働きかける課題の提示の工夫(意外性、疑問、好奇心など)と発問の工夫
	②「振り返り」活動の確実な実施と内容の充実	ア 「めあて」「まとめ」「振り返り」の授業展開への位置付けと提示方法の工夫と確実な実践 イ 授業計画シートや板書計画ノートを作成
(2) 学業指導(・学びに向かう集団づくり・子どもが意欲的に取り組む授業づくり)の工夫	①安心して学び合える集団づくり	ア Q-Uや学級力アンケートの実施・結果分析による学習集団づくり(年2回、教育相談、学級活動等) イ 互いのよさを生かし、互いを認め合う学級経営(朝の会、帰りの会、係・当番活動等)
	②個のよさを生かす学習形態や学習活動	ア 学習形態の工夫による学び合いと時間の確保(小集団による交流、協力) イ タブレット端末による個人の考えの表現
(3) 達成感や喜びのある授業の工夫	①達成感や成就感を得られる教材やICT機器の活用	ア 教材の収集、開発、作成、管理、活用など イ 一人一台のタブレット端末活用などによる個人の考えの表現の工夫(エアドロップの活用等) ウ 課題解決のために活用するICT機器の使い方スキルアップの支援
	②学年相応の家庭学習の充実	ア 家庭学習の実態調査と分析(全国学力・学習状況調査やとちぎっ子学習状況調査質問紙、学校評価) イ 家庭学習のガイドラインやモデルの提示(「家庭学習のすすめ」を用いた家庭への啓発と協力依頼) ウ 授業との関連を図った家庭学習の工夫および自律的・計画的な学習方法の支援(自主学習の充実)

(2) 研究授業を通した主題への取組

① 3年生算数 (S & U コラボ事業 指導者：宇都宮大学教育学研究科教授 日野 圭子先生)

○単元名 「あまりのあるわり算」

○研究主題に迫るために

具体的な場面を取り上げ、図や式などに表したことで、あまりのない除法との違いを考えることができた。その結果、乗法九九を用いて答えを見つけることができた。既習事項を活用し、課題解決に向け、「分かった」「できた」という喜びや達成感をもたせることで学習意欲が高まり、主体的に学びに向かうことができた。また、本時の学習活動において、自分の考えをグループで交流させる活動を取り入れ、仲間と協力し合ったり、互いの考えを認め合ったりしながら、意見を交流し合うことで、学びを深めることができた。さらに、タブレット端末などのICT機器を活用することで、達成感や成就感を得ることができた。

○研究協議

- ・類推的な考え(既習事項の引き出し)を使って考える児童の姿が見られた。今後、さらにレベルアップするためには、試行錯誤を繰り返しながら、見通しをもって既習事項から新しいことを類推できるようにしていく必要がある。
- ・問題への解釈は児童にとってさまざまな場合があり、算数は答えが1つと思いがちだが、答えに向かう思考は複数あることを考えるのも大事である。

② 6年生算数 (S & U コラボ事業 指導者：宇都宮大学教育学研究科教授 日野 圭子先生)

○単元名 「並べ方と組み合わせ方」

○研究主題に迫るために

算数に対して苦手意識をもっている児童も多く、既習内容の定着の個人差が大きい。自分たちが見いだした問いや与えられた課題に対しては意欲的に取り組むことができる。そこで、導入では身近な話題を取り上げ児童の意欲を高められるようにした。自力解決が困難な児童には、個別に支援したり、グループ学習を通して友だちの多様な考え方や表し方に触れさせたりしながら思考できるよう支援した。また、児童の困り感や発言を取り上げ、共に考え、解決していくことで、「分かる楽しさ」「できる喜び」を実感させる授業を展開することができた。

○研究協議

- ・本時の内容は、中学・高校・大学とつながっていく大事な内容であり、論理的な思考を育てることができる学習である。
- ・以前にも同単元で授業研究会を実施したことがあり、より深い教材研究を施し検証授業に臨んだ。その結果、児童が変わると反応も変わることを検証できた。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ① ICT 機器(主にタブレット端末)を活用し、自分の考えを全体で共有することが容易になったことで、考えが浮かばなかった児童も、友達の考えを参考にしてノート等に自分の考えを書くことができるようになり、学習意欲が高まり、主体的な学びにつながった。
- ② 本校児童の課題の1つである「友達の前での考えや意見の発表」を克服するために、小集団での学び合いに取り組んだ。その際、めあてを確認し、学び合いの目的をはっきりさせたことで、児童同士が話す内容が明確になり、論点がそれることなく話し合うことができ、互いに高め合う児童を育成することができた。

(2) 研究の課題

- ① 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着の一助として、家庭学習(自主学習)の充実を図りたい。自主学習のモデルを提示し、内容の充実を促したが、更なる改善の余地があると考えられる。学年だよりや学級懇談会、家庭学習強調週間などを活用し、家庭への啓発と協力依頼にも取り組みたい。
- ② 児童が学ぶことに興味や関心をもつとともに、見通しをもち粘り強く学習に取り組めるようにするために、自ら目的意識や課題意識(疑問・問い)をもつことができる導入場面を工夫していきたい。更に教材研究を進め、自作教材や具体物の活用の工夫、ICT 機器を活用した導入の工夫、児童の情意に働き掛ける課題の提示の工夫や発問の工夫に取り組んでいきたい。